

# 平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 共同研究 4	公益目的事業 16
主査名	鹿島 茂 ・ 中央大学工学部 教授	
研究テーマ	社会・経済環境の長期的変化と総合的な交通計画	
<b>研究の目的：</b> <p>本研究の目的は、総合的な交通計画作成時に行われた交通調査結果及び需要予測手法について、事後的に分析を行い、交通需要の変化を適切に表現するために必要とされる調査データと予測手法の条件について明らかにすることに加え、調査データや予測手法を活用するための計画の作成体制のあり方について検討する。</p>		
<b>研究の経過（4月～9月）：</b> <p>これまでに8月と9月に2回研究会を開催した。3月まであと3回の研究会を予定している。第1回目の研究会では過去5回の総合交通体系作成時に用いられた国際貨物輸送量の予測モデルについての事後分析結果の中間報告がなされ、それに基づいてメンバー間で今後の分析の進め方について意見を交換した。第2回目の研究会では、2つのテーマについて報告がなされた。第1のテーマはADB（アジア開発銀行）の支援下でCAA(Clean Air Asia)が行っているアジア太平洋地域における持続的な交通の実現についての紹介と、そのなかで、オープンデータ事業への協力の可能性についてである。第2のテーマは、ソウル市が最近作成公表したソウル交通ビジョン 2030 についてと、このテーマでソウルにて開催された国際コンファレンスでの議論の紹介である。これらについてメンバー間で知識を共有するとともに、わが国でのこれからの取り組みのあり方について意見を交換した。</p>		
<b>下期へ向けて（課題等）：</b> <p>今後は、本研究に関連する最新のトピックのメンバーによる紹介とそれを基にした意見交換に加え、本年度予定している研究内容に沿った検討を行う。具体的には、①我国の100を超える都市圏で行われたPT調査結果から、交通需要モデルの1つである機関分担モデルの距離抵抗にかかる複数の係数を用いて行っているメタ分析結果、②総合交通体系策定時に用いられた全国交通需要モデルを対象に行っている需要予測結果に関する事後分析結果、について順次研究会に報告しメンバーから、問題点、改善点について意見をもらうことにしている。もう1つの研究内容については、KOTI（韓国交通研究院）とIBS（計量計画研究所）が共同で実施している高齢社会における公共交通の役割に関する研究にメンバーの2名が参加し、日本、韓国での高齢化社会への対応の考え方と現在想定している具体的対策について情報収集を行い、その結果を研究会で報告し、それを基に議論を進めることにしている。</p>		
<b>研究メンバー（敬称略）：</b> <p>鹿島茂（主査・中央大学）今長久（自動車研究所）小坂浩之（海上技術安全研究所）坂本将吾（電力中央研究所）小林貴（中央大学）島川陽一（サレジオ工業高等専門学校）杉田浩（計量計画研究所）廣田恵子（自動車研究所）武田超（SMBC ラーニングサポート）布施正暁（広島大学）ヘイズ・ウイリアム（オリエンタルコンサルタンツグローバル）</p>		